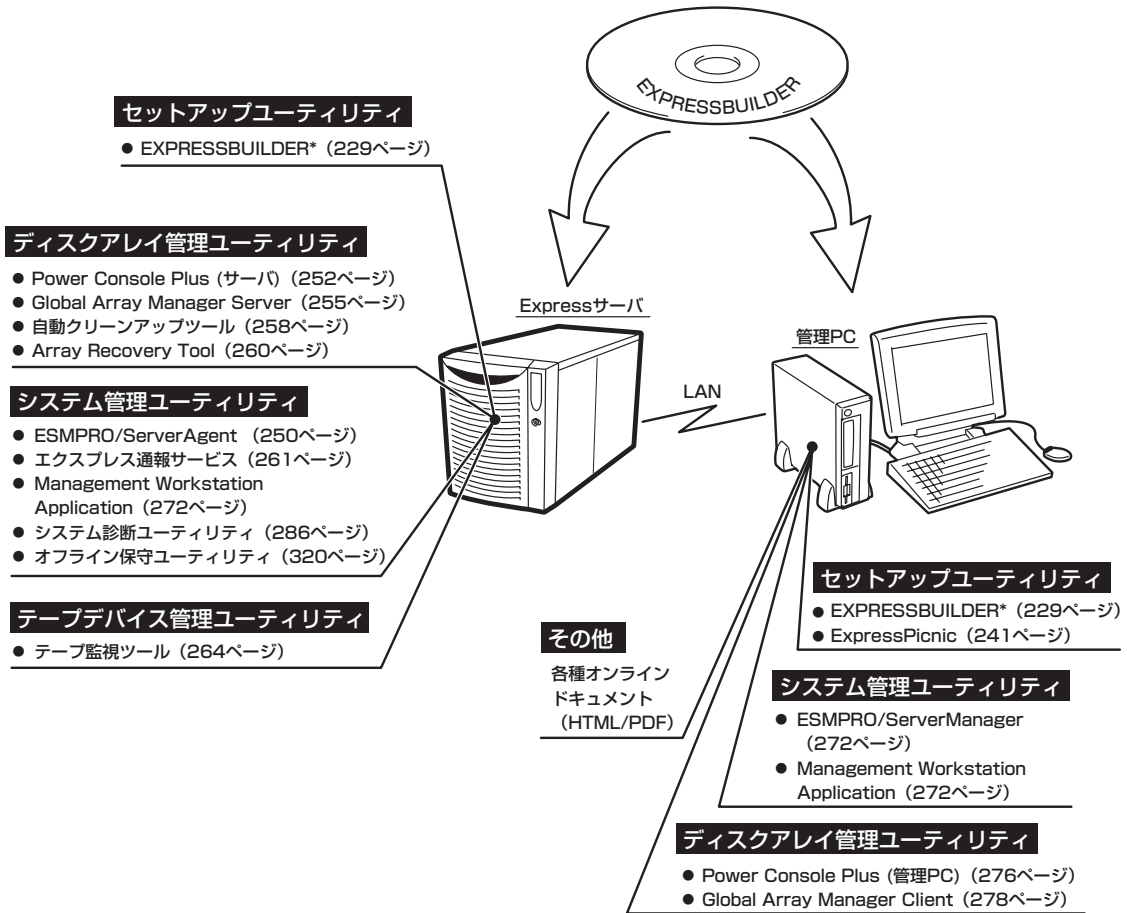
3 ソフトウェア編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER™」には、Expressサーバを容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、Expressサーバの機能をより多く引き出すことができます。

CD-ROM「EXPRESSBUILDER」は、Expressサーバの設定が完了した後でも、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

* コンソールレスで操作する場合。COMポートも使用可能。

- ビルド・トゥ・オーダで購入した装置のハードディスクには電源管理をする次のユーティリティがインストールされている場合があります。それぞれのページを参照してセットアップをしてください(これらのユーティリティはEXPRESSBUILDERの中には含まれていません)。

  ー　ESMPRO/UPSController Ver. 2.1（266ページ参照）
  ー　PowerChute *plus* Ver. 5.11J/5.2J（270ページ参照）

- ディスクアレイコントローラのRAIDを設定するユーティリティはボード上のチップに搭載されています。これらのユーティリティの操作方法については、ボードに添付の説明書、またはEXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの際にはハードウェアの構成を運用時と同じ状態にしてください。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには3つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

重要 **Expressサーバ本体にディスクアレイコントローラボードが搭載されている時は、EXPRESSBUILDERを使用する場合にのみ、LANコンソールリダイレクション機能を無効にしてください。**

- **EXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する**

EXPRESSBUILDERをExpressサーバのCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法でExpressサーバを起動すると右に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目からExpressサーバをセットアップします。

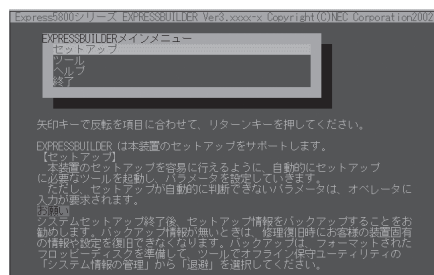
重要

- **Expressサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたExpressサーバ以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。**
- **メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。**

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

- **コンソールレスでEXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する**

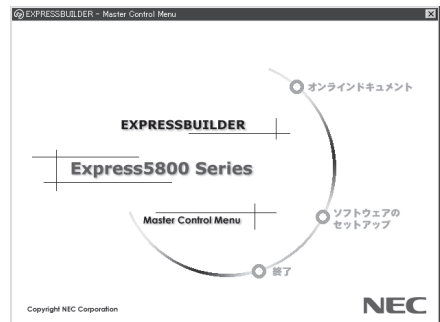
キーボードやマウス、ディスプレイ装置をExpressサーバに接続していない状態でEXPRESSBUILDERをExpressサーバのCD-ROMドライブから起動するすると、LANかCOM(シリアルポート)で接続している管理用コンピュータ(PC)の画面には、右に示す「EXPRESSBUILDERメインメニュー」が表示されます。

管理PCからこのメニューにある項目を使ってExpressサーバを遠隔操作をします。

- Expressサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたExpressサーバ以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。
- コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、以下の動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

EXPRESSBUILDERメインメニューについてはこの後の「コンソールレスメニュー」を参照してください。

- Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows 95/98/Me、またはWindows XP/2000、Windows NT 4.0が起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。

EXPRESSBUILDERトップメニュー

EXPRESSBUILDERトップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。

BIOSの設定を間違えると、CD-ROMから起動しない場合があります。EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOS SETUPユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。

「Boot」メニューで「CD-ROM Drive」を一番上に、「Removable Devices」を二番目に設定する。

起　動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

1. 周辺装置、Expressサーバの順に電源をONにする。
2. ExpressサーバのCD-ROMドライブへCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。

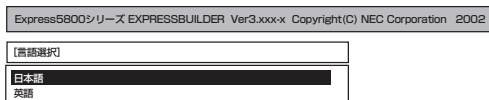
   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

言語選択

EXPRESSBUILDERを初めて起動すると、言語選択メニューが現れます。
表示する言語を選択してください。この選択結果により使用するキーボードも自動的に設定されます。なお、このメニューは、1度設定を行うと以降は表示されません。

Express5800シリーズ EXPRESSBUILDER Ver3.xxx-x Copyright(C) NEC Corporation 2002

[言語選択]

日本語
英語

1度設定をした後、言語（キーボード）の設定を変更したい場合は、EXPRESSBUILDERの起動中（画面中央部に「EXPRESSBUILDER」のロゴ表示があるとき）に<K>キーを数秒間、押してください。画面にキーボード選択画面が現れ、言語（キーボード）の再設定ができます。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。

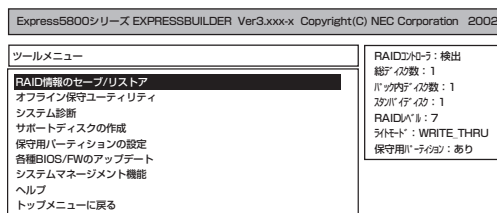
シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS（Windows 2000・Windows NT 4.0）、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく（シームレスで）セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。
購入時の状態と異なるハードディスクのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。
「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。

重要

- **「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクの内容が失われることがあります。**
- **セットアップを開始したら、完了するまで本体装置の電源をOFFにしないでください。また、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。**

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。

また、システム診断やサポートディスクの作成、保守用パーティションの設定を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。

● **RAID情報のセーブ/リストア**

このメニューはAMIディスクアレイコントローラが接続されているとき表示されます。

ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存または、フロッピーディスクから復元することができます。

－ RAID情報のセーブ

フロッピーディスクにコンフィグレーション情報を保存します。フォーマット済みのをフロッピーディスクを用意してください。

－ RAID情報のリストア

フロッピーディスクからコンフィグレーション情報を復元します。「RAID情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。

● **オフライン保守ユーティリティ**

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。 詳細は320ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

● **システム診断**

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。286ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● **サポートディスクの作成**

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要となるサポートディスクを作成します。 なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

－ Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000 ServerやWindows 2000 Advanced Serverをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します(「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません)。

－ Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows NT 4.0やWindows NT 4.0 EE、Windows NT 4.0/TSEをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します（Windows NT 4.0またはWindows NT 4.0 EEを「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません）。

－ ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

Windows OSのパーティション構成によりFDISKが起動できない場合があります。この場合は、Windows OSのディスク管理ツールを使用してパーティションの操作を行ってください。

－ オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

－ システム診断ユーティリティ

システムチェックプログラムの起動用のサポートディスクを作成します。

－ システムマネージメント機能

BMC（Base board Management Controller）による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行うプログラムの起動用サポートディスクを作成します。

● **保守用パーティションの設定**

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用パーティションが作成されていないときは「保守用パーティションの作成」と「FDISKの起動」以外の項目は表示されません。保守用パーティションの詳細については、8ページを参照してください。

「保守用パーティションの設定」の各項目を実行している間は、Expressサーバをリセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。

－ 保守用パーティションの作成

16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保し、続けて各種ユーティリティのインストールを行います。すでに保守用パーティションが確保されている場合は、各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

－ 各種ユーティリティのインストール

各種ユーティリティ（システム診断／システムマネージメント機能／オフライン保守ユーティリティ）を、CD-ROMから保守用パーティションへインストールします。インストールされたユーティリティは、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動した場合に、使用することができます。

－ 各種ユーティリティの更新

各種ユーティリティ(システム診断／オフライン保守ユーティリティ)を、フロッピーディスクから保守用パーティションへコピーします。各種ユーティリティがフロッピーディスクでリリースされたときに実行してください。それ以外では、本項目は使用しないでください。

－ FDISKの起動

ROM-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。

Windows OSのパーティション構成によりFDISKが起動できない場合があります。この場合は、Windows OSのディスク管理ツールを使用してパーティションの操作を行ってください。

● **各種BIOS/FWのアップデート**

8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、Expressサーバのbios/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

Express5800サイト『8番街』：http://nec8.com/

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。

重要 **BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。**

● **システムマネージメント機能**

BMC(Baseboard Management Controller)による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

● **ヘルプ**

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

● **トップメニューに戻る**

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

コンソールレスメニュー

EXPRESSBUILDERは、Expressサーバにキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ(管理PC)から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。

重要

- **Expressサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたExpressサーバ以外のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。**
- **コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、コンソールレス動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。**

ソフトウェア編

設定情報ファイルの作成

コンソールレスでExpressサーバを遠隔操作するためには、操作する管理PCとの通信方法や詳細な設定を保存した「設定情報ファイル」(3.5インチフロッピーディスク)が必要です。

設定情報ファイルは、EXPRESSBUILDERにあるアプリケーション「MWA(Management Workstation Application)」を使用します。

重要

「MWA」の詳細な説明については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内に格納されているオンラインドキュメント「MWA ファーストステップガイド」を参照してください。オンラインドキュメントはマスターコントロールメニューから開くことができます(272ページ参照)。

1. 管理PCにMWAをインストールする。

   詳しくは、本編で説明している「MWA」の項目またはEXPRESSBUILDER CD-ROM内に格納されている「MWA ファーストステップガイド」を参照してください。

2. フォーマット済みの1.44MBのフロッピーディスクを管理PCのフロッピーディスクドライブにセットする。

3. MWAの[ファイル]メニューから[コンフィグレーション]-[新規作成]の順に選択して[設定モデルの選択(新規作成)]ダイアログボックスを表示させる。

4. [FD書き込みを行う]にチェックし、使用している装置のモデル名を選択して[BMC搭載モデル用コンフィグレーション]ダイアログボックスを表示させる。

   例)　Express5800/140Hc、Express5800/140Rb-4など

5. [BMC搭載モデル用コンフィグレーション]ダイアログボックスで、コンピュータ名などのコンフィグレーション情報を設定/登録後、以下のファイル名でフロッピーディスクに書き込む。

   ＜設定情報ファイル名＞: CSL_LESS.cfg

設定項目とその値は次のとおりです。

クロスケーブルによるコンソールリダイレクション	
使用モード	ダイレクト（クロスケーブル）
ボーレート	19.2Kbps
フロー制御	なし
LANによるコンソールリダイレクション	
IPアドレス	任意
サブネットマスク	任意
デフォルトゲートウェイ	任意
1次通報先	管理用PCのIPアドレス

ヒント

BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- LAN Controller 1(10/100): [Enabled]
- Serial port A: [Enabled]
  Base I/O address: [3F8]
  Interrupt: [IRQ 4]
- Serial port B: [Enabled]
  Base I/O address: [2F8]
  Interrupt: [IRQ 3]
- Serial Port Address: [On-board COM B]
- Console Type: [PC ANSI]

起　動

次の手順に従って起動します。

- 起動する前に「設定情報ファイル」を用意しておいてください。
- BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。CD-ROMドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。

- シリアルポート接続はシリアルポートBのみ使用可能です。
- LAN接続はLANポート1のみ使用可能です。

管理PC側の手順

クロスケーブルによるコンソールリダイレクション

1. MWAの[ファイル]メニューから[環境設定]－[COMポート]の順に選択して[COMポートの設定]ダイアログボックスを表示させ、以下のように設定する。

   ＜COMポートの設定＞

   ポート　　　：接続する管理コンピュータ側のCOMポート
   ボーレート　：19200
   フロー制御　：None

2. MWAの[ファイル]メニューの[開く]コマンドからサーバを選択してサーバウィンドウを開く。
3. サーバウィンドウ上で右クリックして表示されるポップアップメニューから[プロパティ]コマンドを選択して[プロパティ]ダイアログボックスを表示させ、以下のように設定する。

   ＜[ID]ページ＞

   接続形態　　：COM
   COM　　　　：ダイレクト（クロスケーブル）

4. サーバウィンドウが開いている状態で、[接続]ボタンをクリックする。

LANによるコンソールリダイレクション

1. MWAの[ファイル]メニューの[開く]コマンドからサーバを選択してサーバウィンドウを開く。
2. サーバウィンドウ上で右クリックして表示されるポップメニューから[プロパティ]コマンドを選択して[プロパティ]ダイアログボックスを表示させ、以下のように設定する。

   ＜[ID]ページ＞

   接続形態　　：LAN

   ＜アラートページ＞

   [標準設定を使用する]のチェックを外して[アクティベート]のリセットにチェックする。

3. サーバウィンド上で右クリックして表示されるポップアップメニューから[リモートコンソールの動作指定]コマンドを選択して[リモートコンソールの動作指定]ダイアログボックスを表示させ、[MWAモードで実行]を選択する。

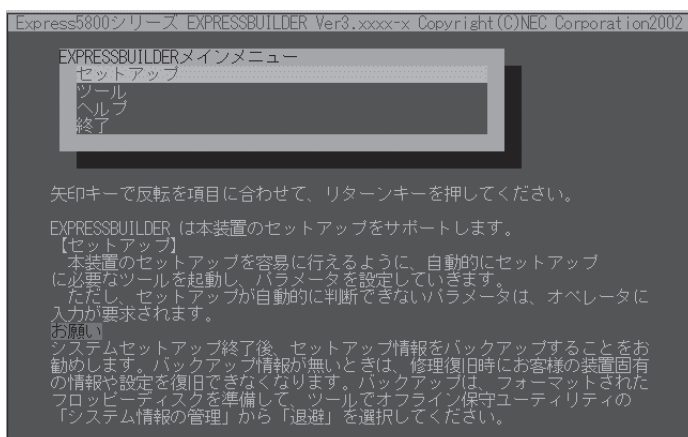
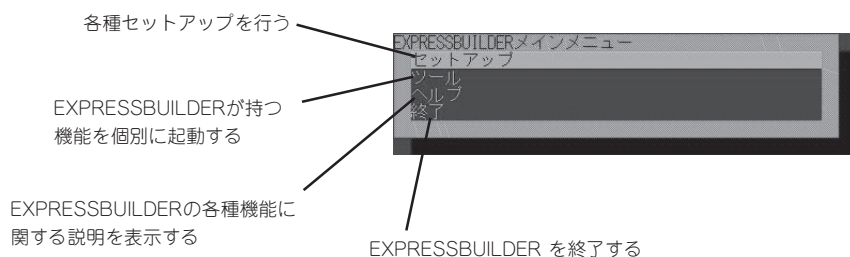
サーバ側の手順

1. コンソールレス機能で操作するExpress5800シリーズ本体のBIOSセットアップユーティリティを起動して、BOOTメニューの起動順序でCD-ROMドライブが最初に起動するよう設定する。

2. 本体のフロッピーディスクドライブに「設定情報ファイルの作成」で作成したフロッピーディスクをセットする。

3. 本体のCD-ROMドライブへCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。

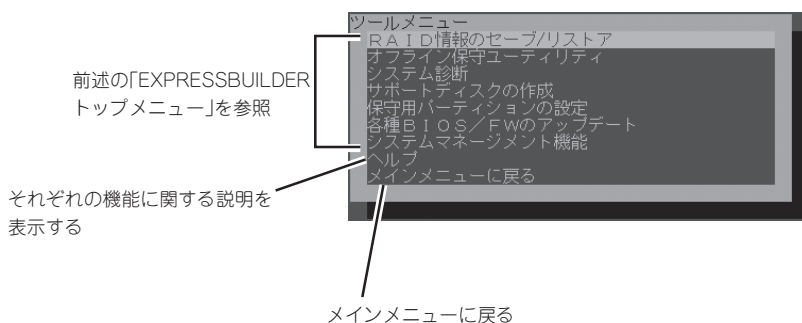
4. 本体の電源をOFF/ONして本体を再起動する。

再起動中に設定情報がロードされ、メインメニューが管理PCに表示されます。
ハードウェアのセットアップ、各種ユーティリティを管理PCから実行できるようになります。

メインメニューにある項目は次のとおりです。

セットアップ

本体のハードウェア構成をチェックして、ディスクアレイコンフィグレーションおよび保守用パーティションの設定を自動的に行います。

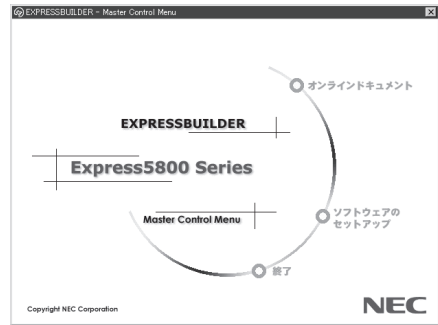
ツールメニュー

メインメニューでツールを選択すると以下のメニューが表示されます。
ツールメニューにある項目は、「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」の項目の中からコンソールレスで使用できるもののみがあげられています。それぞれの機能については、前述の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

重要

「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」にある機能と比較すると次の点が異なります。

- **「システム診断」の内容や操作方法(詳しくは、286ページを参照してください)**
- **「サポートディスクの作成」で作成できるディスクの種類**

マスターコントロールメニュー

Windows 95/98/Me、またはWindows XP/2000、Windows NT 4.0が動作しているコンピュータ上で添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。

システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューからは、Windows 95/98/Me、Windows XP/2000、Windows NTで動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。

オンラインドキュメントはHTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを参照する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLブラウザをインストールしておいてください。また、HTML文書がブラウザに正しく関連付けられていないとファイルが開けないときがあります。そのようなときは306ページを参照して関連付けを再設定してください。

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Reader がインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックで現れるポップアップメニューから行います。

CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、Expressサーバのセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからExpressサーバをセットアップすることをお勧めします。

「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows 2000またはWindows NT 4.0をインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

ExpressPicnicのインストール

セットアップパラメータFDを作成するためにWindows XP/2000、またはWindows NT 3.51以降、Windows 95/98/Meで動作しているコンピュータにExpressPicnicをインストールします。

ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

Windows XP/2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Me

Windows XP/2000、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。

お使いになっているモデルによって画面に表示される内容が多少異なることがありますが、同じ手順でセットアップすることができます。

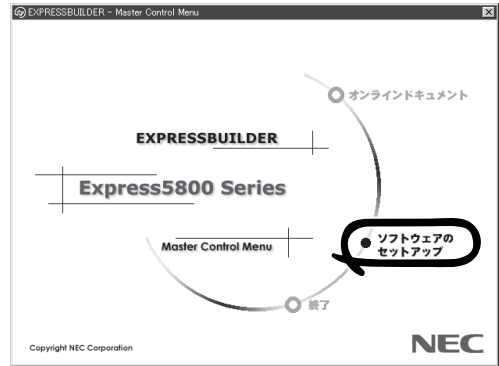
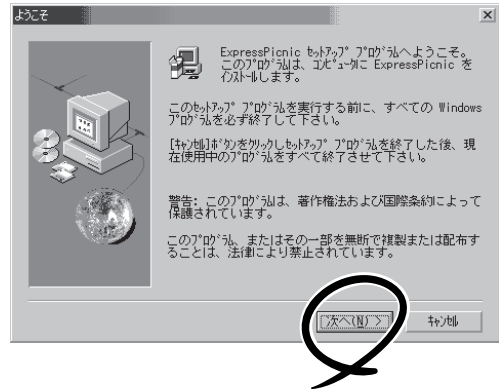
1. OSを起動する。
2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

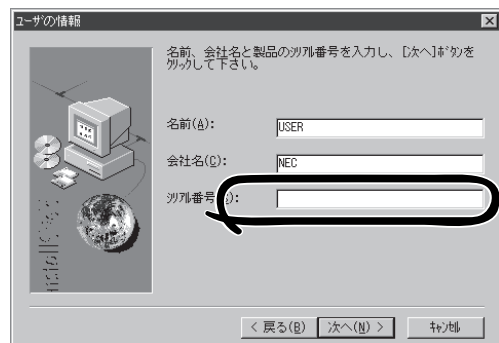
   マスターコントロールメニューが表示されます。

3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックする。

   メニューが表示されます。

4. [ExpressPicnic]をクリックする。

   セットアップウィザードが起動します。

   メッセージに従ってインストールを続けてください。

> ✔ チェック
>
> [ユーザの情報]ダイアログボックスの[シリアル番号]を入力する必要はありません。

   インストールを完了したら[終了]ボタンをクリックし、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。

Windows NT 3.51

Windows NT 3.51で動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。

1. Windows NT 3.51を起動する。

2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。

3. ファイルマネージャまたはコマンドプロンプトから、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」の「¥WINNT¥PICNIC¥SETUP¥SETUP.EXE」を実行する。

   セットアップウィザードが起動します。メッセージに従ってインストールを続けてください。インストールを完了したら、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。

セットアップパラメータFDの作成

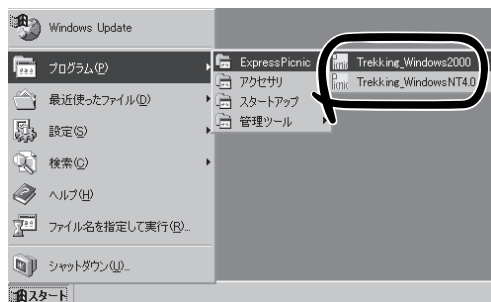
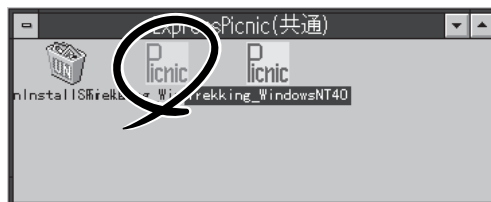
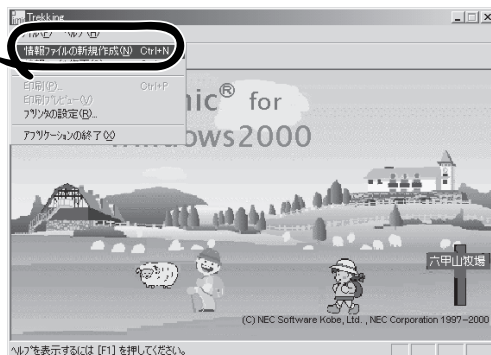
OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。

手順の中では、Trekkingコマンドをインストールしたときに指定したフォルダ名を「ExpressPicnic」と仮定しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる。

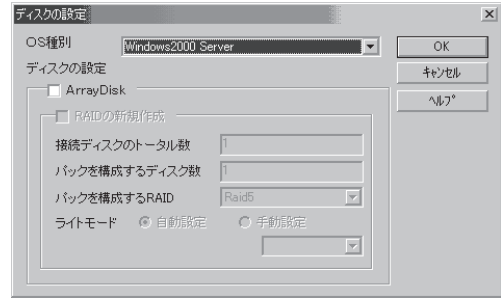
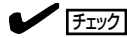
   <Windows XP/2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Meの場合>

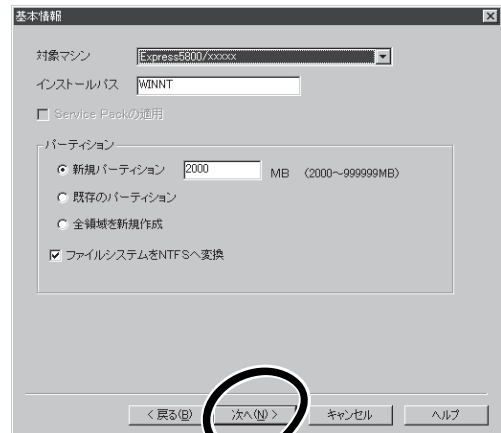
   スタートメニューから[プログラム]ー[ExpressPicnic]ー[Trekking]の順にポイントし、インストールしたいOS([Windows NT 4.0]または[Windows 2000])をクリックする。

   <Windows NT 3.51の場合>

   プログラムマネージャの[ExpressPicnic]グループから[Trekking]アイコンをダブルクリックする。

2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

   [ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

ソフトウェア編

3. 各項目を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

   [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]ボタンをクリックする。

   [キャンセル]ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

   セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル保存]ダイアログボックスが表示されます。

5. [セットアップパラメータFD]チェックボックスをオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

6. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows 2000やWindows NT 4.0をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。

- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの[情報ファイルの修正]をクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。

追加アプリケーションのインストール

EXPRESSBUILDER CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

重要 **追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップ対応されている必要があります。**

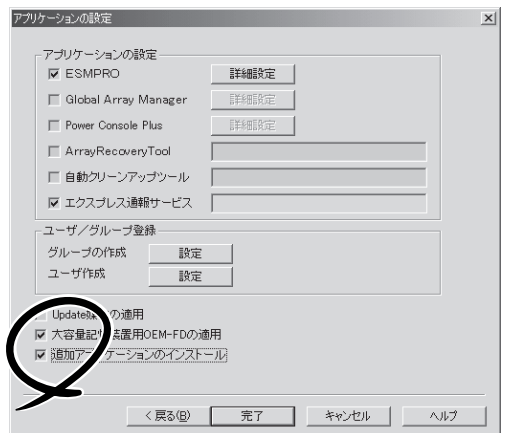
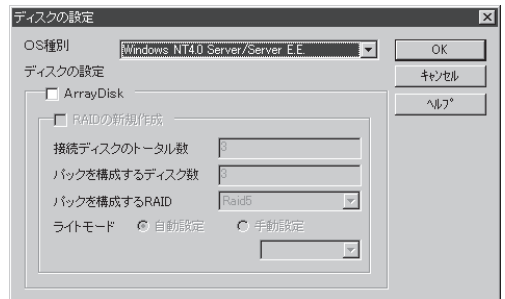
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(243ページ参照)。
2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

   [ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。
3. 各項目を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

   [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックス順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]ボタンをクリックする。

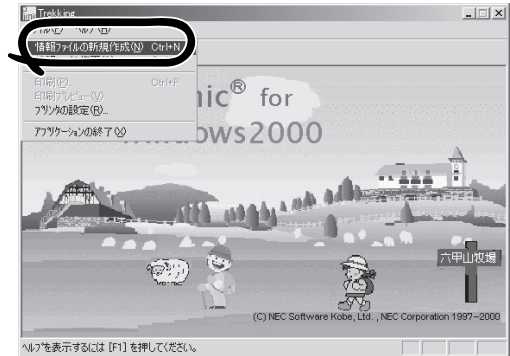
   チェック

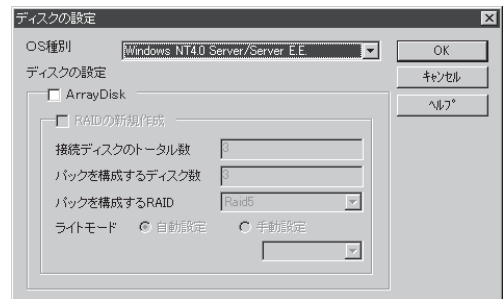
   [キャンセル]ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。
5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール]にチェックを入れる。
6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタン をクリックする。

オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(243ページ参照)。

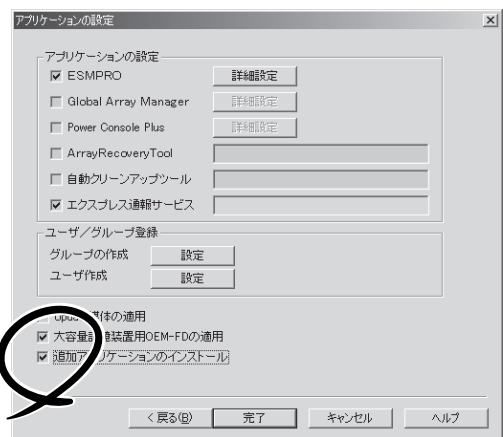
2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

   [ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

   [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]ボタンをクリックする。

[キャンセル]ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用]にチェックを入れる。

Windows 2000用のセットアップ情報ファイルを作成するとき、[ディスクの設定]で[OS種別]を[Windows 2000 Professional]にした場合は選択できません。

6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

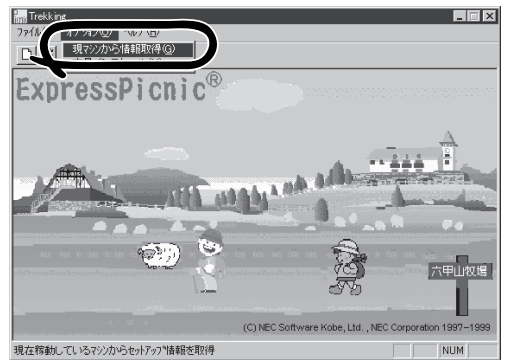
7. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタン をクリックする。

コンピュータからの情報採取

ExpressPicnicが、起動しているマシンのセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ情報ファイルを作成します。

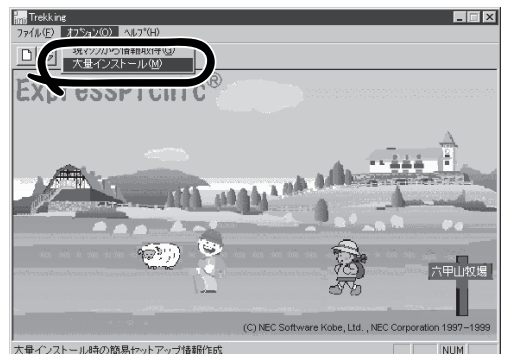
- ユーザ／グループ情報は採取できません。
- リモートアクセスサービス(RAS)については設定情報を採取できません。
- アプリケーションで設定情報を採取できるのは、ESMPRO/ServerAgentだけです。
- 取得できない情報に関しては、既定値を表示しています。

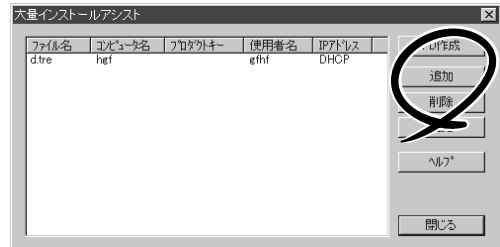
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(243ページ参照)。
2. ［オプション］メニューの［現マシンから情報取得］をクリックする。

   取得後は、確認／修正画面に移ります。初期値が、取得したデータになっていることを除けば「情報ファイルの新規作成」、あるいは「情報ファイル修正」と同じです。

大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要のあるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

Windows 2000用セットアップ情報ファイルの作成

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(243ページ参照)。
2. ［オプション］メニューの［大量インストール］をクリックする。

3. [ファイルを開く]画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。

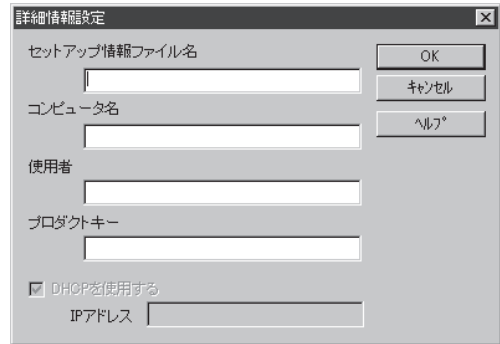
   ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。

4. [追加]ボタンをクリックする。

5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。

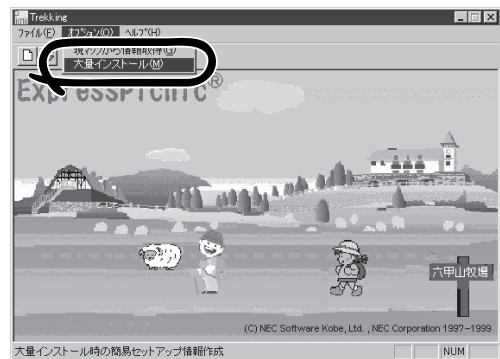
6. [OK]ボタンをクリックする。

   リストに追加した情報が表示されます。

7. ファイル名を選択し、[FD作成]ボタンをクリックする。

   選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。

Windows NT 4.0用セットアップ情報ファイルの作成

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(243ページ参照)。

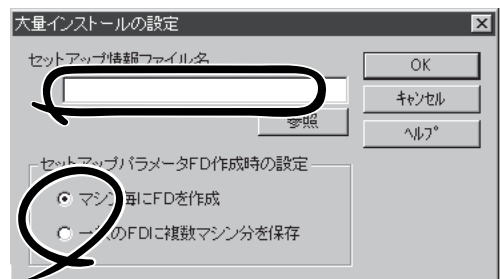
2. [オプション]メニューの[大量インストール]をクリックする。

3. ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定する。

4. [セットアップパラメータFD作成時の設定]からどちらかのオプションを選択する。

   [マシン毎にFDを作成]

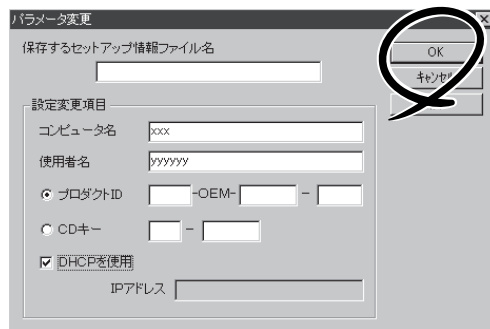
   1枚のセットアップパラメータFDにセットアップ情報ファイルを1つセーブします。

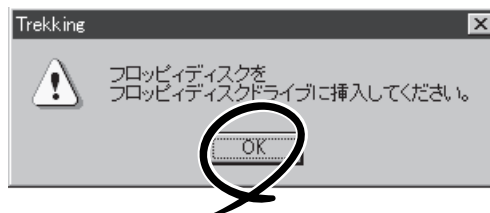
   [一枚のFDに複数マシン分を保存]

   1枚のセットアップパラメータFDに複数のセットアップ情報ファイルをおさめます。

5. [OK]ボタンをクリックする。

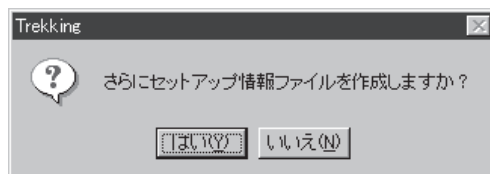
6. マシンごとに変更する必要のあるパラメータのみ修正して、セットアップ情報を作成する。

   ダイアログボックスが表示されます。

7. 必要な設定を終えたら、[OK]ボタンをクリックする。

8. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。

   しばらくすると、さらに情報ファイルを作成するかどうかの確認があります。

9. セットアップ情報を作成するときは、[はい]ボタンをクリックする。

   セットアップ情報を作成するダイアログボックスが表示されます。

   [いいえ]ボタンをクリックすると、ExpressPicnicウィンドウに戻ります。

[マシン毎にFDを作成]を選択した場合は、セットアップ情報ファイルを作成するたびにフロッピーディスクのセットを要求されます。[一枚のFDに複数マシン分を保存]を選択した場合は、同じフロッピーディスク上に作成したファイルをおさめるため、フロッピーディスクをセットする要求は1度しかありません。

Express本体用バンドルソフトウェア

Expressサーバにバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)

ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)はWindows 2000/Windows NTで運用しているExpressサーバにインストールするサーバ監視用アプリケーションです。EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。

運用上の注意事項については、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはWindows 2000/Windows NTのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgentのインストールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。Expressサーバ上のWindows 2000/Windows NT 4.0が起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[ESMPRO]ー[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。

- アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。
- Mylexディスクアレイコントローラを監視する場合は、Global Array Managerをインストールする必要があります。EXPRESSBUILDERからESMPRO/ServerAgentのセットアップを起動すると、自動的にGlobal Array Managerのインストーラは起動します。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。

アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. Expressサーバを再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

   エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからインストールし直してください。

運用時の補足事項

オンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)インストレーションガイド」に記載されている運用時の補足事項に加えて、以下の点について注意してください。

CPU情報について

BIOS設定でHyper-Threading Technologyを有効にしている場合、データビューアのシステムツリーで仮想CPU分のCPU名/タイプ/内部クロック/外部クロックが以下のように表示されます。これらの値は、搭載している他のCPUの情報を参照してください。

CPU名	:	Unknown
タイプ	:	不明
内部クロック	:	0MHz
外部クロック	:	0MHz

Power Console Plus(サーバ)

Power Console PlusはAMI製ディスクアレイコントローラシステムを構築しているWindows2000/Winodws NTサーバの監視・管理用のアプリケーションです。
Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズマニュアル」を参照してください。

本装置の3.5インチハードディスクベイまたはオプションの増設HDDケージをディスクアレイ構成にした場合、Power Console Plusをインストール後、Enclosure Managementメニューの Enclosure Property画面や、システムイベントログに以下のように表示されますが、3.5インチハードディスクベイやオプションのHDDケージではFAN2は使用しないため、動作には問題ありません。

- Enclosure Property画面上

  Fan 1: Operational
  Fan 2: Not present

- システムイベントログ表上

  Adapter 1 Channel1 Target 6: Status of Fan #2=0x02: Not Installed

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にPower Console Plusがあらかじめインストールされている場合があります。このままでも使用できますが、後述の「Power Console Plus(サーバ)の環境設定」に記載の内容の設定を行うことをお勧めします。また、リモートからの監視を行う場合は別途、Power Console Plus(管理PC)のインストールを行ってください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

Power Console Plusは添付の「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。
シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Power Console Plus」を選択してください。なお、シームレスセットアップ後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視を行う場合は別途、Power Console Plus(管理PC)のインストールを行ってください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は以下の説明を参考にしてインストールをしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法についてはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズマニュアル」を参照してください。

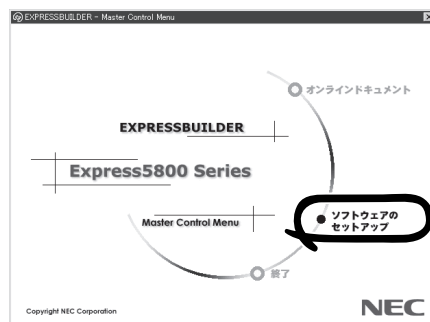
Power Console Plus（サーバ）をインストールする前に

Power Console Plus（サーバ）をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- AMI製のディスクアレイコントローラがシステムに取り付けられていること
- AMI製のディスクアレイコントローラのドライバが組み込まれていること
- WindowsのSNMPサービスが組み込まれていること
- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
- Windows Installerが組み込まれていること（Microsoft Windows NT 4.0の場合）
- Administratorsグループでログオンされていること
- Windows NT 4.0の場合、Service Pack 5以降が適用されていること
- Internet Explorer 4.01 Service Pack 2以降がインストールされていること

- Windows NT 4.0でのWindows Installerの組み込みはEXPRESSBUILDERの「¥ESMPRO¥JP¥I386¥PCON¥AMI¥INSTMSIW.EXE」を起動してください。なお、Windows 2000はこの操作は不要です。
- Internet Explorer4.01サービスパック2以上はWindows NT 4.0のService Pack 5または6a媒体からインストールできます。

Power Console Plus（サーバ）のインストール手順

Power Console Plus（サーバ）のインストールは添付のEXPRESSBUILDERを使用します。Windows 2000/Windows NT 4.0ではEXPRESSBUILDERをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]－[ESMPRO]－[関連ユーティリティメニューへ]－[Power Console Plus]の順にクリックします。

ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「サーバ」または「サーバ＋管理サーバ」をチェックし、［次へ］ボタンをクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。なお、インストール後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視を行う場合は別途、Power Console Plus（管理PC）のインストールを行ってください。

上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus(サーバ)の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**

ネットワーク経由で制御する場合はすべてのサーバ/管理PCおよび管理サーバのIPアドレスとホスト名を登録してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- **REGSERV.DATの設定**

ネットワーク経由で制御する場合は管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- **ESMPRO/ServerManagerとのメニュー連携の設定**

システムにESMPRO/ServerManagerがインストールされている場合は、ESPRESSBUILDERの「ESMPRO¥JP¥I386¥PCON¥PCPESMSM.EXE」を実行してください。

- **パスワードファイルのアクセス権設定**

「c:¥Winnt¥System32¥drivers¥etc¥raidpass.val」(c:¥Winntは、Windowsの一般的なインストール先フォルダです)をセキュリティ保持の観点からNTFSファイルアクセス権をAdministrator権限などに変更してください。

Global Array Manager Server(Windows 2000/Windows NT版)

Global Array Manager(GAM)Server(Windows 2000/Windows NT版)はMylexディスクアレイシステムを構築しているWindows 2000/Windows NTサーバの監視・管理用のアプリケーションです。
GAM Serverの動作環境については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Server(Windows 2000/Windows NT版)インストレーションガイド」を参照してください。GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にGAM Serverがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのGAM Serverの管理者用アカウントである「gamroot」は作成していますが、パスワードを設定していません。このままでも使用できますが、セキュリティ保持の観点からパスワードを設定されることをお勧めします。

購入時にインストール済みのGAM Serverの設定内容については、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Global Array Manager Server(Windows 2000/Windows NT版)インストレーションガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

GAM Serverは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。
シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Global Array Manager」を選択してください。「手動インストール(新規インストール)」の「GAM Serverをインストールする前に」で記載した内容を満足するようにシームレスセットアップ中のセットアップ情報を設定してください(DACドライバはMylexディスクアレイコントローラが接続されたマシンのシームレスセットアップで自動的に組み込まれます)。

シームレスセットアップ後に設定をしなければならない項目は特にありません。
ただし、GAM ClientからGAM Serverを制御するために「adminstrator」権限を持つユーザー「gamroot」が必要です。シームレスセットアップではこの「gamroot」を作成します。シームレスセットアップでGAMをインストールするときはシームレセットアップの設定時に「gamroot」のパスワードを設定することをお勧めします。
パスワードを設定しないとセキュリティ上の問題が発生する可能性があります。

手動インストール（新規インストール）

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。
インストールに関する詳しい手順については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版) インストレーションガイド」を参照してください。また、GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

GAM Serverをインストールする前に

GAM Server（Windows 2000/Windows NT版）をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- DACドライバが組み込み済みであること
- TCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
  33ページ（Windows 2000）、51ページ（Windows NT）を参照してください。
- SNMPサービスの設定が終了していること
  ESMPROと連携する場合GAM Serverのインストールに先立って設定を終了させておく必要があります。

GAM Serverのインストール手順

GAM Serverのインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」と書かれたCD-ROMを使用します。
Windows 2000/Windows NT 4.0ではEXPRESSBUILDERのCD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから［ソフトウェアのセットアップ］－［ESMPRO］－［関連ユーティリティ］－［Global Array Manager］の順にクリックします。ここで表示される［セットアップオプションの選択］ダイアログボックスの［GAM Serverインストール］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください（各ダイアログボックスでの推奨する操作をヒントにまとめています）。

- アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。
- GAM Serverのインストール後は必ずシステムを再起動してください。

[セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます]はチェックしてください。

GAM Serverの環境設定

● GAMの管理者用アカウントgamrootの登録

GAMを使用する場合、GAMの管理者用のアカウントであるgamroot(すべて小文字)というユーザーが必要です。Windows 2000/Windows NTのユーザーマネージャで登録してください。gamrootが所属するグループにはAdministrators(ドメインサーバの場合はDomain Admins)を追加してください。

カスタムインストールモデルなどでGAM Serverをインストールして出荷している装置については、gamrootユーザーは登録済みです。ただし、パスワードを設定していません。セキュリティ保持の観点から必ず、パスワードを設定するようにしてください。

● GAM Serverの環境設定ファイルの修正

[セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます]をチェックした場合、この作業は不要です。なお、修正する場合はオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版)インストレーションガイド」を参照してください。

自動クリーンアップツール

自動クリーンアップツールはMylexディスクアレイの整合性をチェックし、検出した不整合を修復するアプリケーションです。
自動クリーンアップツールの動作環境や使用方法については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時に自動クリーンアップツールがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みの自動クリーンアップツールは、スケジュールの設定がされていません。スケジュール設定については、後述の自動クリーンアップツールの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」を参照し、設定してください。

購入時にインストール済みの自動クリーンアップツールの設定内容についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

自動クリーンアップツールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます(DACドライバやGAMドライバはMylexディスクアレイコントローラが接続されたマシンのシームレスセットアップで自動的に組み込まれます)。
シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「自動クリーンアップツール」を選択してください。なお、「手動インストール(新規インストール)」の「自動クリーンアップツールをインストールする前に」で記載した内容を満足するようにシームレスセットアップ中のセットアップ情報を設定してください。

シームレスセットアップはスケジュール設定までは行っていません。スケジュール設定については後述の自動クリーンアップツールの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」を参照し、設定してください。

手動インストール（新規インストール）

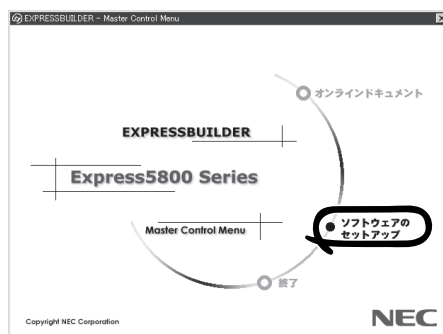
手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。
インストールや操作に関する詳しい手順については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」を参照してください。

自動クリーンアップツールをインストールする前に

自動クリーンアップツールをインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- DACドライバが組み込み済みであること
- GAM Serverが組み込み済みであること
- システムのアップデートが終了していること
  33ページ（Windows 2000）、51ページ（Windows NT）を参照してください。

自動クリーンアップツールのインストール手順

自動クリーンアップツールのインストールは添付CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。Windows 2000/Windows NT 4.0ではEXPRESSBUILDER CD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[自動クリーンアップツール]をクリックします（またはダイアログボックス上で右クリックすると表示されるポップアップメニューから選択します）。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。

重要

アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

自動クリーンアップツールの環境設定

自動クリーンアップツールのスケジュール起動はWindows 2000/Windows NTの標準機能であるATコマンドのスケジュール機能を利用します。この場合、scheduleサービスが実行中でなければなりません。
scheduleサービスの起動はコントロールパネルの[サービス]をダブルクリックして表示される[サービス]ダイアログボックスで行います。

- サービスの設定はAdministratorsローカルグループのメンバであるユーザアカウントでログオンする必要があります。
- scheduleサービスのスタートアップは「自動」に設定しておくことをお勧めします。

ソフトウェア編

Array Recovery Tool

Array Recovery Toolは、Mylexディスクアレイコントローラに接続されているハードディスクの状態を監視し、不良ハードディスク(DEAD状態)を検出すると自動的にリビルド、整合性チェックを行い、システムドライブを復旧します。

Array Recovery Toolのインストールは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。インストール終了後に特別な設定などをする必要はありません。
Array Recovery Toolのインストールや動作環境の設定についてはEXPRESSBUILDER内のオンラインドキュメントを参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。
本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。
また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストレーションガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

  本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

  契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]ボタンをクリックする。

   アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。

   [エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。

   エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ　18.0MB以上
- ハードディスクの空き容量　30.0MB以上
- モデム

  ダイヤルアップ経由の通報を使用する場合、モデムが必要です。ダイヤルアップ経由のエクスプレス通報で使用するモデムはNECフィールディングにご相談ください。
- メールサーバ

  電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- Microsoft® Windows® 2000 日本語版(Server/Advanced Server/Professional)
- Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(Server/Workstation)
- ESMPRO/ServerAgent Ver.3.1以降

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

  本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

  契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。
また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

テープ監視ツール

テープ監視ツールは、Expressサーバに搭載したテープドライブならびに使用しているテープメディアの状態を監視するユーティリティです。
ヘッドの汚れや不良テープの使用などによるバックアップファイルの消失やバックアップの失敗などを防止するために、テープドライブを搭載している装置にはこのユーティリティをインストールすることをお勧めします。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にテープ監視ツールがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのテープ監視ツールのサービスを次のように設定してください。
サービスの設定は[コントロールパネル]の[サービス]をダブルクリックすると起動します。

- 選択するサービス名:　TapeAlertChecker
- スタートアップの種類:　自動
- ログオン:　システムアカウント
　[デスクトップとの対話をサービスに許可]にチェック

サービスに[TapeAlertChecker]がない場合は、装置にインストールされていません。次の「手動インストール(新規インストール)」を参照してインストールしてください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。詳しくはオンラインドキュメントの「テープ監視ツールセットアップガイド」をご覧ください。オンラインドキュメントは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリにPDFファイルで格納されています。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥_inst32i¥SG_TP3.pdf

動作環境

ハードウェア

- インストールする装置　Express5800/50、100、600シリーズ本体
- メモリ　500KB以上
- ハードディスクの空き容量　2.2MB以上

ソフトウェア

- オペレーティングシステム
  - Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(Service Pack 5以降)
  - Microsoft® Windows® 2000 日本語版

- アプリケーション
  - ARCserve J6.0 for Windows NT (SP3)(全エディション)
  - ARCserve J6.5 for Windows NT(全エディション、Patch07が必要)
  - ARCserveIT J6.61 for Windows NT(全エディション)
  - ARCserve 2000 (SP2)(全エディション)
  - BackupExec for Windows NT Ver.7.3
  - BackupExec for Windows NT Ver.8.5
  - NTBackup(Windows NT標準装備のバックアップツール)
  - BKUP

監視対象装置

テープ監視ツールで監視できるテープドライブは次のとおりです(2002年3月現在)。

- 内蔵/外付 AIT　N8151-28/-34/-41/-44、N8551-19/-28/-34、N8560-16
- 内蔵/外付 AIT集合型　N8151-29、N8551-20/-29/-36、N8560-17
- 内蔵/外付 DAT(DDS3)　N8151-12BC、N8551-12/-12A/-12BC、N8560-12/-12AC
- 内蔵/外付 DAT集合型(DDS3)　N8551-13/-13AC、N8560-13/-13AC
- 内蔵TRAVAN　N8551-21
- 外付TRAVAN集合型　N8560-19
- 内蔵/外付 DAT(DDS4)　N8151-26/-43、N8551-26、N8560-22
- 内蔵/外付 DAT集合型(DDS4)　N8151-27、N8551-27、N8560-23
- 内蔵SLOT　N8151-38
- 内蔵LTO　N8151-37/-40
- 外付LTO　N8160-39

対象ドライブとバックアップソフトの対応につきましてはNECのWeb情報ページにある8番街(http://nec8.com/)の「ケア・サポート」ー「テクニカルガイド」ー「Express5800/100シリーズテクニカルガイド」にあります。バックアップ装置<バックアップ装置対応ソフトウェア①WindowsNT/2000>を確認してください。

インストール手順

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリにある「Setup.exe」をエクスプローラなどから起動してください。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥_inst32i¥setup.exe

以降は画面に表示されるメッセージに従ってください。詳しくはオンラインドキュメントで説明しています。
インストールの完了後、サービスが動作していることを確認してください。前ページの「カスタムインストールモデルでのセットアップ」の説明を参照してください。
監視についての詳細な設定は、iniファイルを編集することで変更できます。iniファイルは「C:¥Program Files¥TapeAlertChecker¥Ctrl.ini」です(デフォルトの設定でインストールした場合)。設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/UPSController Ver.2.1

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるESMPRO/UPSController Ver.2.1について説明します。

ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

インストール済みのESMPRO/UPSControllerのセットアップ

Expressサーバのモデルの中には出荷時に「ESMPRO/UPSController」がインストール済みの場合がありますが、設定値はデフォルト値のままになっている場合があります。
ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

ESMPRO/UPSControllerサービス(SPOC-I Service)の起動

[サービスコントロールマネージャ]を開き、[SPOC-I Service]を開始してください。
すでに、[SPOC-I Service]が開始されている場合はそのままでかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

SPOC-I Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。
動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示すの処理を行う必要はありません。

■ **確認1　イベントビューアによる確認**

Windows 2000/Windows NTの「イベントビューア」でESMPRO/UPSControllerが正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「SPOC-I Service」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

［正常］　UPS通信開始
［異常］　UPS通信エラー(無応答)
　　　　このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

■ 確認2　ESMPRO/UPSControllerのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]ー[ESMPRO_UPSController]ー[UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ]を起動する。

   起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

2. [UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。

   [正常]　UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、「負荷容量の値(%)」等が表示される。
   [異常]　UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、「負荷容量の値(%)」等が表示されない。
   この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]ー[ESMPRO_UPSController]ー[UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ]を起動する。

   起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

2. [UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ]のメニューバーより、[設定] - [動作環境の設定]を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。

3. 正しく設定した後、[UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ]のメニューバーより、[ファイル]ー[上書き保存]を選択し、設定を保存する。

4. [コントロールパネル]の[サービス]を開き、[SPOC-I Service]を再起動する。

5. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

ESMPRO/UPSController Ver2.1を新規にインストールする手順を説明します。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストール

現在コンピュータにインストールされているESMPRO/UPSControllerをアンインストールしてください。
ESMPRO/UPSControllerのアンインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver.2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってアンインストールしてください。
ESMPRO/UPSControllerのアンインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。
アンインストール後は、必ずコンピュータを再起動してください。

インストール

ESMPRO/UPSControllerのインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってインストールしてください。
ESMPRO/UPSControllerのインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アップデートインストール

アップデートは次の手順に従ってください。

1. Administratorsローカルグループに所属するユーザーでログオンする。
2. 安全のために、必要最小限のアプリケーション(Serverサービスなど)を除くアプリケーションを終了する。
3. 「スタートメニュー」ー「設定」ー「コントロールパネル」ー「サービス」で次のサービスを停止する。
    - SPOC-I Service
    - ESMPRO/ARC Service
    - SNMP Service
4. 「ExpressServerStartup」のCD-ROMをCD-ROMドライブに、「ESMPRO/UPSController Ver2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)をフロッピーディスクドライブにセットする。
5. 「ExpressServerStartup」CD-ROMの中にある「SETUP.EXE」を起動する。

    ESMPRO/UPSControllerのアップデートが開始されます。
6. アップデート完了後、システムを再起動する。

7. 再起動後、ESMPRO/UPSControllerマネージャを起動し、ESMPRO/UPSControllerのバージョンを確認する。

ESMPRO/UPSController Version 2.1

以上でアップデートは終了です。

PowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2J

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるPowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2Jについて説明します。

ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

Expressサーバのモデルの中には出荷時に「PowerChute *plus*」がインストール済みの場合があります。ただし、PowerChute *plus*はデフォルト値の状態でインストールされています。ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

PowerChute *plus*サービス(UPS-APC PowerChute *plus* Service)の起動

[コントロールパネル]の[サービス]を開き、[UPS-APC PowerChuteplus Service]を開始してください。すでに[UPS-APC PowerChuteplus Service]が開始されている場合はそのままでかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

UPS-APC PowerChute *plus* Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。
動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありません。

■ 確認1　イベントビューアによる確認

Windows 2000/Windows NTの「イベントビューア」でPowerChute *plus*が正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「UPS」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

〔正常〕　UPSとの通信が確立しました。
〔異常〕　UPSとの通信が確立できません。
　　　　　このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

■ 確認2　PowerChute *plus*のGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、次の手順でUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]ー[PowerChutePLUS]ー[PowerChutePLUS]を起動する。

   起動方法の詳細はPowerChute *plus*の「インストールガイド」を参照してください。

2. [PowerChutePLUS]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。

   [正常]　データフィールドエリアの「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などが表示される。

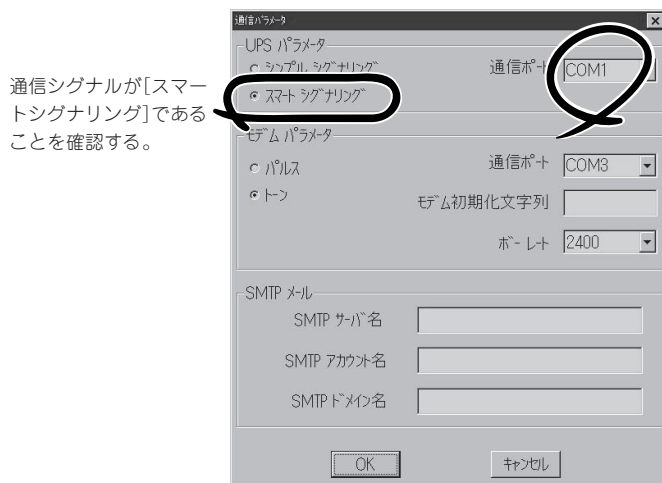
   [異常]　UPS情報の「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などがグレーアウトで表示されている。
   この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]ー[PowerChutePLUS]ー[PowerChutePLUS]を起動する。

   起動方法の詳細は、PowerChute *plus*の「オンラインヘルプ」、またはPowerChute *plus*に添付の「ユーザーズガイド」を参照してください。

2. [PowerChutePLUS]のメニューバーより、[構成]ー[通信パラメータ]を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。

3. 正しく設定した後、[OK]ボタンをクリックし、「PowerChutePLUS」のメニューバーより、[システム]ー[別のサーバを監視]を選択し、再度監視するサーバを選択する。

4. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

PowerChute *plus*の新規インストール(再インストール)については、PowerChute *plus*に添付の「インストールガイド」を参照してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

Expressサーバをネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、EXPRESSBUILDERにバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。
管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。

ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」を参照してください。

MWA 〜Management Workstation Application〜

MWA(Management Workstation Application)は、ネットワーク上から管理PC(ESMPRO/ServerManagerが動作しているコンピュータ)を使用して、Expressサーバをリモート管理するためのアプリケーションです。Express5800シリーズの運用管理を行う管理者の負担を軽減させることができます。

MWAのセットアップと運用に関する詳細な説明については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内の以下のパスに格納されているオンラインドキュメント「MWAファーストステップガイド」を参照してください(EXPRESSBUILDERの「マスターコントロールメニュー」からも開くことができます)。

CD-ROMドライブ:¥mwa¥doc¥jp¥mwa_fsg.pdf

機能と操作方法に関する詳細な説明については、MWAのオンラインヘルプを参照してください。

通信方法

MWAを使用する管理PCがLAN、WAN、ダイレクト(シリアル(COM)ポート)のいずれかの方法でExpress5800シリーズと接続されていればMWAを使ったリモート管理ができます。

- **LAN接続はLANポート1のみ使用可能です。ダイレクト接続はシリアルポートBのみ使用可能です。**
- **Serial Console RedirectionのBaud Rateは「57.6Kbps」に設定しないでください。本装置では、57.6Kbpsのボーレートをサポートしていません。**

MWAの機能

MWAはExpress5800シリーズのシステムBIOSやベースボードマネージメントコントローラ(BMC)と接続することにより以下の機能を実現しています。

● **リモートコンソール機能**

Express5800シリーズのPOST実行画面およびMS-DOS/ROM-DOSのブート中の実行画面を管理PC上のMWAのウィンドウから見ることができます。またこの間、Express5800シリーズを管理PCのキーボードから操作できます。

重要

- **LAN接続によるリモートコンソールで「RAID EzAssist」を起動する場合には、BIOSセットアップユーティリティにてServerメニューの「Console Redirection」を選択し「Serial Port Address」を「Disabled」に設定してください。**
- **LAN接続でのMWAリモート監視において、リモートコンソールの動作指定は「指定なし」(Default設定)で使用してください。「MWAモードで実行」を指定すると、ExpressサーバのOSが起動できなくなる場合があります。なお、MWAモードはOSがMS-DOSの場合のみ使用できます。**

● **リモートドライブ機能***

管理PC上のフロッピーディスクドライブまたは、フロッピーディスクのイメージファイルからExpress5800シリーズを起動することができます。

* LAN接続時のみの機能です。

● **リモート電源制御**

管理PC上のMWAからリモートで、Express5800シリーズに対して以下の電源制御が行えます。

- パワーON/OFF
- パワーサイクル(パワーOFFの後、しばらくしてパワーON)
- リセット
- OSシャットダウン*

* 本コマンドをサポートしているESMPRO/ServerAgentがExpress5800シリーズ上で動作している場合のみの機能です。

● **リモート情報収集**

管理用PC上のMWAからリモートで以下の情報を収集することができます。

- システムイベントログ(SEL)
- センサ装置情報(SDR)
- 保守交換部品情報(FRU)
- BMC設定情報

● **ESMPROとの連携***

Express5800シリーズのBMCからの装置異常などの通報を受信すると通報内容を解析して、ESMPROのアラートログへ自動的に登録します。

* LAN経由のみの機能です。

動作環境

MWAを動作させせることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次の通りです。

- **管理PC(インストールするコンピュータ)**

  MWAは Windowsが動作しているコンピュータ上で動作します。詳細は「MWAファーストステップガイド」を参照してください。

- **MWAでリモート保守する装置**

  Express5800シリーズに添付のユーザーズガイドにMWAの記載がある装置。対象装置には、RomPilot、BMC、SMCのいずれかが搭載されています。本装置にはBMC(IPMI Ver.1.5)が搭載されています。

MWAのインストール

MWAを使って本装置を管理するには、Express本体側にMWA Agentを、管理PC側にMWA Managerをそれぞれインストールしてください。

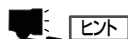
MWA AgentはBMCをコンフィグレーションするためのツールです。Windows上からBMCをコンフィグレーションしたい場合にインストールしてください。MWA ManagerからExpress5800シリーズをリモート制御する際には、MWA Agentは必要ありません。

MWA Agentのインストール

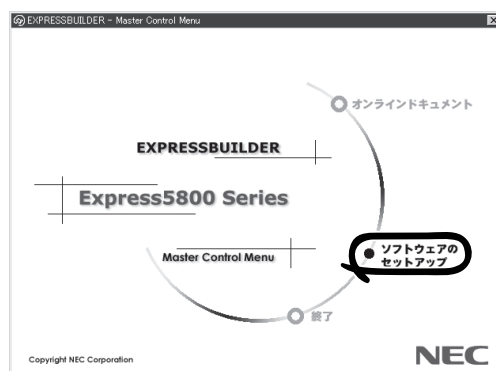
MWA Agentは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使ってExpress本体にインストールします。

1. Windows 2000またはWindows NT 4.0を起動する。
2. CD-ROM 「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

   Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

3. [ソフトウェアのセットアップ]ー[MWA]の順にクリックする。

   右図の画面上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

4. [MWA Agent]をクリックする。

   MWA Agentのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストールしてください。

MWA Managerのインストール

MWA Managerは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って管理PCにインストールします。

1. Windowsを起動する。

   ヒント

   MWAが動作可能なOSについて、「MWAファーストステップガイド」を確認してください。

2. CD-ROM 「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

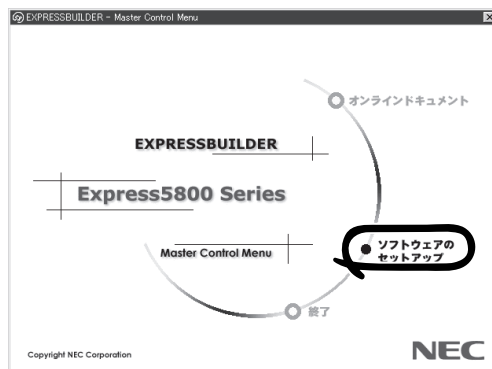
   Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

3. [ソフトウェアのセットアップ]ー[MWA]の順にクリックする。

   ヒント

   右図の画面上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

4. [MWA Manager]をクリックする。

   MWAのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストールしてください。

コンフィグレーション

コンフィグレーションで必要なものは次のとおりです。

- **EXPRESSBUILDER CD-ROM**
- **設定情報**

  コンフィグレーションはMWA側とExpress5800シリーズ装置側の両方必要です。MWA側ではリモート管理するExpress5800シリーズの装置台数分の設定情報が必要です。

  Express5800シリーズ装置側のコンフィグレーションには2通りの方法があります。

  「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからExpress5800シリーズを起動して実行する「システムマネージメントの設定」によるコンフィグレーションとExpress5800シリーズ装置のWindows 2000またはWindows NT上から起動するMWA Agentによるコンフィグレーションです。

  詳細な手順については「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内にある「MWAファーストステップガイド」またはMWAのオンラインヘルプを参照してください。

Power Console Plus(管理PC)

Power Console Plusをネットワーク経由でサーバを管理する場合にインストールします。Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console PlusTMユーザーズマニュアル」を参照してください。

以下の説明を参考にしてPower Console Plus(管理PC)を管理PCにインストールしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法についてはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console PlusTMユーザーズマニュアル」を参照ください。

本装置の3.5インチハードディスクベイまたはオプションの増設HDDケージをディスクアレイ構成にした場合、Power Console Plusをインストール後、Enclosure ManagementメニューのEnclosure Property画面や、システムイベントログに以下のように表示されますが、3.5インチハードディスクベイやオプションのHDDケージではFAN2は使用しないため、動作には問題ありません。

- Enclosure Property画面上

  Fan 1: Operational
  Fan 2: Not present

- システムイベントログ表上

  Adapter 1 Channel1 Target 6: Status of Fan #2=0x02: Not Installed

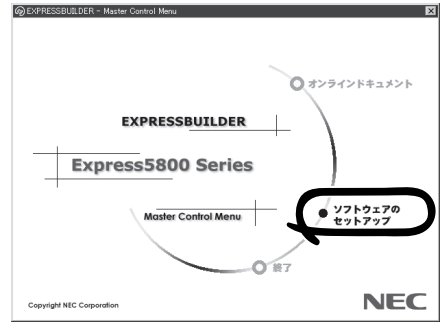
Power Console Plus(管理PC)をインストールする前に

Power Console Plus(管理PC)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
- Windows Installerが組み込まれていること
- Administratorsグループでログオンされていること
- Windows NT 4.0の場合、Service Pack 5以降が適用されていること
- Internet Explorer 4.01 Service Pack 2以降がインストールされていること

- Microsoft Windows NT Version 4.0でのWindows Installerの組み込みは、「EXPRESSBUILDER」の「¥ESMPRO¥JP¥I386¥PCON¥AMI」にあるファイル「INSTMSIW.EXE」を実行して組み込みます。Microsoft Windows 95/98/Meの場合、同様に「INSTMSIA.EXE」を実行し組み込みます。なお、Windows 2000はこの操作は不要です。
- Internet Explorer4.01 Service Pack 2以降はWindows NT 4.0のService Pack 5または6a媒体からインストールできます。

Power Console Plus(管理PC)のインストール手順

Power Console Plus(管理PC)のインストールは添付のEXPRESSBUILDERを使用します。Windows 2000、Windows NT 4.0、およびWindows 95/98/MeではEXPRESSBUILDERをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[ESMPRO]ー[関連ユーティリティメニューへ]ー[Power Console Plus]の順にクリックします。

ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「管理PC」または「管理PC+管理サーバ」をチェックし、[次へ]ボタンをクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。

上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus(管理PC)の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**

  管理サーバとすべてのサーバ/管理PCのIPアドレスとホスト名を登録してください。

- **REGSERV.DATの設定**

  管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。

- **ESMPRO/ServerManagerとのメニュー連携の設定**

  システムにESMPRO/ServerManagerがインストールされている場合は、ESPRESSBUILDERの「ESMPRO¥JP¥I386¥PCON¥PCPESMSM.EXE」を実行してください。

Global Array Manager Client

Global Array Manager(GAM)Clientは、GAM Serverと連携してMylexディスクアレイシステムを監視し、グラフィカルな画面で簡単に管理や操作をすることができます。
GAM Clientの動作環境については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Client インストレーションガイド」を参照してください。GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にGAM Clientがあらかじめインストールされている場合もあります。GAM ClientがインストールKAみのExpressサーバに後からESMPRO/ServerManagerをインストールした場合は、環境設定をし直してください。環境設定については後述のGAM Clientの環境設定やCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」に記載しています。

購入時、Expressサーバにインストール済みのGAM Clientの設定内容についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

GAM Clientは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。
シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Global Array Manager」を選択してください。なお、シームレスセットアップでTCP/IPの設定をするようにセットアップ情報を設定してください。
シームレスセットアップでGAM Clientをインストールした場合で、後からESMPRO/ServerManagerをインストールした場合は、環境設定をし直してください。環境設定については後述のGAM Clientの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。
インストールに関する詳しい手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。
また、GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

GAM Clientをインストールする前に

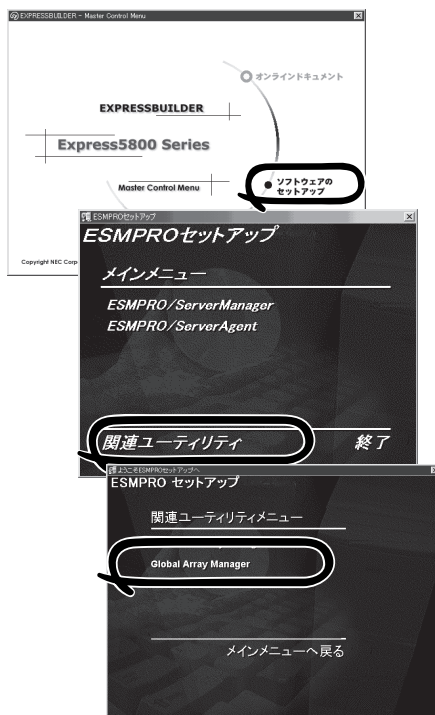
GAM Clientをインストールするときは、次の準備が必要です。

- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- Windows 2000/Windows NTのシステムにインストールする場合はAdministratorsグループでログオンしていること
- ESMPRO/ServerManagerのインストールが完了していること(ESMPROとの連携を行う場合のみ)
- マウスまたはその他のポインティングデバイスが使えること

GAM Clientのインストール手順

GAM Clientのインストールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。
Windows 2000、Windows NT 4.0、Windows 95/98/MeではEXPRESSBUILDERのCD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ESMPRO]ー[関連ユーティリティ]ー[Global Array Manager]の順にクリックします。ここで表示される[セットアップオプションの選択]ダイアログボックスの[GAM Clientインストール]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックし、以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください(各ダイアログボックスでの推奨する操作をヒントにまとめています)。

Windows 2000/Windows NTのシステムにインストールする場合、インストール時はAdministratorsグループでログオンしてください。

- [セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます]はチェックしてください。
- EXPRESSBUILDERのメニューから選択してGAM Clientをインストールする場合はインストール先のシステムの状況によってインストールされるGAM Clientのバージョンが異なります。インストールされるGAM Clientのバージョンについては「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。
特定のバージョンのGAM Clientをインストールする場合も「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。EXPRESSBUILDER内にオンラインドキュメントとして格納されています。
- GAM ClientとGAM Serverのバージョン組み合わせによって有効な場合と無効な場合があります。このため1つのマシンに複数のGAM Clientをインストールし使い分ける必要があります。詳しくはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメントを参照してください。

GAM Clientの環境設定

GAM Clientをインストールしたら、ここで説明する手順に従って環境設定をします。

ESMPROとの連携のための環境設定

GAM Clientは、ESMPROと連携させることで、ESMPROの統合ビューアのメニューから GAM Clientを起動できるようになります。

ESMPROと連携するための環境設定は、次の場合に必要です。

- GAM Clientのインストール時に環境設定を行わなかったとき
- GAM Cientの後にESMPRO/Server Managerをインストールしたとき

GAM ClientとESMPROを連携させるための環境設定は「コンフィグウィザード」を使います。「コンフィグウィザード」はGlobal Array Managerの環境設定を行うためのプログラムであり、起動するとESMPROと連携するための環境設定を自動的に行います。「コンフィグウィザード」は、GAM Clientのインストール先のディレクトリにある「configwz.exe」を起動することで動作します。

ショートカットの作成について＜Windows NT4.0、Windows95/98のみ＞

通常は、プログラムメニューからGAM Clientを起動してください。
新たにGAM Clientのショートカットを作成するときは、プログラムメニューにあるショートカットをコピーしてください。
エクスプローラなどからGAM Clientのショートカットを作成したときは、ショートカットのプロパティを以下のように修正してご使用ください。

- **リンク先の内容**

  <ｲﾝｽﾄｰﾙﾊﾟｽ>¥winact.exe /file=<ｲﾝｽﾄｰﾙﾊﾟｽ>¥gam2cl.act

  例)

  (変更前)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥GAM2CL.EXE"

  (変更後)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥winact.exe" /file=C:¥Program Files ¥Mylex¥GAM Client¥gam2cl.act

- **アイコンのファイル名**

  <ｲﾝｽﾄｰﾙﾊﾟｽ>¥gam2cl.ico

  例)

  (変更前)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥GAM2CL.EXE"

  (変更後)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥gam2cl.ico"